

# きょうはDONな日

[09/07/31] 2004年7月31日 朱里エイコさんが亡くなった日



【タイトル】「朱里エイコさんが亡くなった日」

【内容】

1946年東京に生まれる。アメリカでショーダンサーとして活躍していた母親の影響でショービジネスの世界に憧れを抱いて、いつしか歌手になることを夢見ていた。

そして、1967年歌手デビュー。当時、一世を風靡したレナウン「イエイエ」のCM曲も歌っていた。

しかし、「朱里エイコ」の名は浸透せず、ヒット曲にも恵まれなかった朱里さんは、母親の影響もあって単身渡米。

ショービジネスの本場ラスベガスでエンターテナーとしての修行を積む。

2年後、その圧倒的な歌唱力が認められ、「エイコ・シュリ」ショーを開くほどに認められた。

その後に日本に帰国し、1972年「北国行きで」を発表。

この曲が大ヒットとなり紅白歌合戦に出場。

翌年73年に発表した「ジェット最終便」も大ヒットし、紅白歌合戦に2年連続で選出された。

朱里さんの魅力はそれだけではなかった。

100万ドルの保険をかけたと言われる日本人離れした脚線美にも人々は魅了された。

朱里さんは人気絶頂の中「エンターテイナーでいたい」との思いから、実力を身につけるべく再び渡米。

アメリカ各地でワンマンショーを続けた結果、1976年に、あの音楽の殿堂、カーネギーホールで日本の女性歌手として初めてジョイントリサイタルを開くという栄光を手にする。

アメリカでの成功を手にし、帰国した朱里さんが目にしたのは、アイドル全盛となった日本の芸能界だった。

朱里さんのようなアメリカ仕込みの歌い方が、なかなか受け入れてもらえない状況・・・

そして1983年、突然の失踪。ステージに穴をあけてしまう。

カーネギーホールでの実績、栄光があるだけに自分の不遇が不思議でならない。

もがけばもがくほど、理想と現実のズレは強まって行き、次第にブラウン管から姿を消した。

そして、更なる不幸が襲い掛かる。肝臓を壊してしまったのだ。

しかし、そんな中でも決して歌を捨てず、マイペースに音楽活動を続けた。

薬の副作用などで太ってしまい、かつての脚線美も消えたその姿に、

周囲からは、引退を勧める声も、あったという。

しかし、歌を信じて、自分を信じて、朱里さんはその後も歌うことだけはやめなかった。

今から5年前の2004年7月31日、心不全のため、朱里エイコさんは自宅でひっそりと息を引き取った。

58歳だった。

最後まで歌だけが生きが이었다という朱里さんは、生前よくこんなことを言っていたという。

「私にとってステージは、マイライフです」